

コア語彙 2.1（検証版）に対する意見募集結果への回答

独立行政法人情報処理推進機構
2015年2月3日

1. はじめに

共通語彙基盤 コア語彙 2 (バージョン 2.2) は、下記要領にて行われた、コア語彙 2.1 (検証版) の意見募集を参考に改善を行ったものです。このドキュメントでは、意見募集の際に寄せられたコメント及びコメントに対する回答を記述します

コア語彙 2.1 (検証版) 意見募集要領

公開日：2014/10/17

公開サイト：<http://goikiban.ipa.go.jp/node665>

意見募集期間：2014/10/17 ~ 2014/11/17

意見募集方法：電子メールによる

2. コメント及び概要

意見 (1)

名前空間として指定された IRI にアクセスした場合に、要求にあったスキーマを取得できるようにしてほしい。

回答

検証版では、実使用ではなく技術者によるレビューを目的としていました。

正式版では、名前空間として指定された IRI からスキーマを取得できるようになります。

意見 (2)

半角英数字の ID、もしくは用語名の英語表記があると、コア語彙を利用したツールを作成する際にエンコード等を配慮しなくても良く便利です。

回答

現在一般的に利用されている多くのツールが Unicode をサポートしていること、データにも日本語が含まれることが多いことに加え、海外語彙とのマッピング等を考慮した結果、日本語のみ提供とさせていただきます。

意見 (3)

コードリストについて まだ整備中だとは思いますが、コードリストの内容についても一般的な表記で整備される事を望みます。

回答

コードリストについては、順次整備していく予定です。コードリストを整備する際には、参考にさせていただきます。

意見（３）

コードリストについて まだ整備中だとは思いますが、コードリストの内容についても一般的な表記で整備される事を望みます。

回答

コードリストについては、順次整備していく予定です。コードリストを整備する際には、参考にさせていただきます。

意見（４）

イベント情報のコア語彙と IEP の内容がずれているので、修正する必要がある。・施設 IEP のコード一覧に観光施設等の情報が足りないので、追加する必要がある。

回答

IEP に不備があり申し訳ありません。修正いたしました。

意見（５）

語彙の名前空間 URI にバージョン文字列や組織名が含まれている。バージョンアップや組織名の変更などに伴う語彙 URI の変更により後方互換性が失われないような URI 設計が望ましい。

回答

RDF の名前空間には、バージョン文字列を含めないようにしました。XML と RDF とでは、名前空間の変更に対する考えかた異なるため、XML の名前空間にはバージョン文字列を残しました。また、組織名については、このままとさせていただきます。

意見（６）

多言語でデータを記述する方法として、たとえば ic:名称型 では >ic:名称_表記 ic:名称_表記-カナ ic:名称_表記-ローマ字 のようなプロパティを用意している。これは CSV 等のフォーマットのラベルとしては有益だが、XML や RDF ではもともと多言語化表記のための手法が用意されており、これらのフォーマットでは既定の方法を使うほうがスマートである。

回答

多言語対応については、XML や RDF における多言語化表記を利用することを想定しています。ローマ字表記と英語表記は必ずしも一致するものではないため、ローマ字表記は日本語のデータという考えに基づき、すべてにおいて物理形式の表記法を使用することはせず名称ローマ字表記（名称が変更されました）等のプロパティを用意しています。

意見（７）

緯度経度の「点」の表現はもっとシンプルにした方が良いのではないか。さらに、今後「線」「面」のサポートを視野に入れて、GeoJSON や GML などを用いた汎用のジオメトリ表現手法を導入した方が良いだろう。

回答

「座標」の見直しを行いました。「コア語彙 2.1 (検証版) からの変更点」3.2 を参照してください。

意見 (8)

現在の ic:地点 に代表される地理情報関係のクラス構成は他の地理情報標準のクラス構成と比較すると拡張性の面で問題がある。「地物」の知見を取り入れて整理することで、より合理的で拡張性の高いクラス構造とすることができる。

回答

「地点」を「地物」とし、「場所」から継承するなど地理情報に関係するクラスの見直しを行いました。「コア語彙 2.1 (検証版) からの変更点」3.2 を参照してください。

意見 (6)

「線」「面」についてはすでに具体的なユースケースが存在している状況であるので、早急な導入が望まれる。

回答

「座標」の見直しを行いました。「コア語彙 2.1 (検証版) からの変更点」3.2 を参照してください。

意見 (7)

RDF の使用者・設計者としては、既存の RDF 語彙と共通語彙の関係について整備することで利便性が向上するのではないか。

回答

既存の語彙とのマッピングについては、今後進めていく予定です。

意見 (8)

全体的に階層構造が深い。フラット（浅い階層構造）な設計の方が物理形式への適用が容易になる。

回答

他の用語からデータ型として参照されることが少ない用語については、独立した用語としないなど、用語の整理を行うことで、用語の階層のフラット化を行いました。

「コア語彙 2.1 (検証版) からの変更点」3.1 を参照してください。

以上